

小学校第6学年 国語科(読書指導)学習指導案

期 日 平成22年9月22日(水)第5校時
場 所 玉名市立小天小学校 6年生教室
指導者 教諭 藤 野 亮

1 単元名

表現を味わい、豊かに想像しよう「やまなし」「イーハトーヴの夢」(光村図書六年下)
(発展)読書を通じて自分の生き方を見つめよう「グスコーブドリの伝記 他」

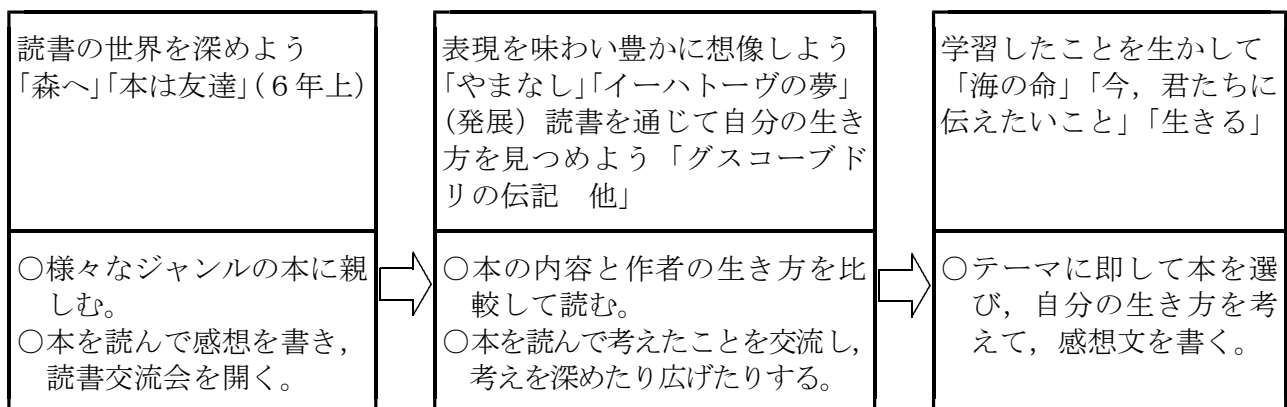
2 単元について

- (1) 本単元は、小学校学習指導要領の目標「C読むこと(3)」を受け、内容(1)エ「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」内容(1)カ「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」をねらいとしている。

本教材「やまなし」では、表現を味わいながら谷川の世界を豊かに想像させる読解指導を行う。また、宮沢賢治の伝記である「イーハトーヴの夢」を補助資料として読むことで、作者の生き方と作品を比較して読む力を児童に身に付けさせる。

読書指導においては、同じく宮沢賢治の「グスコーブドリの伝記 他」の数作品を読ませ、自由に選んだ作品について、本単元で学んだ「比較読み」を加えた「感想の五つの視点(登場人物、作品の主題、キーワード、おもしろさやよさ、比較)」に着目して感想を持ち、交流する言語活動を積み重ねる。これら一連の読書活動は、感想を焦点化し自分の生き方と結びつけて書く技能を高め、自分の考えを深めたり広げたりする活動を通して読んで考え表現する力を高めると考える。

- (2) 本単元の読書指導に関する系統は次のとおりである。



- (3) 本単元に係る読書指導に関する児童の実態は次のとおりである。

【読書への関心・意欲・態度】

○本学級は、男子8人、女子9人、計17人である。図書貸し出し1か月平均冊数は以下のとおりである。

①4冊以上…0人(0%) ②3～4冊…2人(11.8%) ③2～3冊…10人(58.8%) ④0～1冊…5人(29.4%)

学級全体の1か月平均は約2.1冊であり、読書意欲はあまり高くない。また、アンケート調査では、「本を読むのは好きですか」という設問に対し、「あまり好きでない」「きらい」が6人であった。また、「朝自習と授業以外の時間や家庭で読書をしていますか」に対し「ほとんどしない」と答えた児童が12人であった。

【読んで考え表現する力】

○1学期の「森へ」では、物語の主題にせまる感想が書けていた児童は6人であった。

筆者の意図を読み取り、内容に沿って自分を振り返る学習を積んできているが、本の内容と自分を比べて考えをまとめる力が不十分な児童がいる。

○6月の実態調査では、感想に対する理由は述べられていたものの、感想の語彙が不足していたり、感想の視点の焦点化ができていなかったりした児童が多かった。また、自分の体験や知識と比較して作品の内容を考えることができていた児童は、2人であった。

(4) 読書指導にあたっては、次の点に留意する。

【読書への関心・意欲・態度を育てる視点】

- 教師の読書経験を語り、「読書を通じて自分の生き方を見つめよう」という読書活動の目標を設定し、宮沢賢治の作品に出会わせる。
- 教師が宮沢賢治の四つの作品についてブックトークを行い読書意欲を喚起する。
- 読書座談会で取り扱う4作品については、あらすじを掲示したり、廊下に展示したりする。

【読んで考え表現する力を育てる視点】

- 読書スキルワークシート「感想文を書こう」を使って、視点を持って感想を書く技能習得を図る。「ア登場人物の性格や人柄」「イ作者が作品で言いたかったこと」「ウ作品のキーワード」「エ作品のおもしろさやよさ」「オ他の作品・作者の生き方と比べたこと」といった「感想の五つの視点」を示し、それぞれの視点で自分が一番心に残った部分を選んだり、選んだ理由を体験等に結びつけて書くスキルワークを行う。
- 教師が紹介した宮沢賢治の4作品の中から自由に1作品選び、同じ作品を選んだ者同士のグループで、感想の五つの視点からそれぞれ一つの視点を選んで、読書感想を書き伝え合う読書座談会を行わせる。
- 単元末にこれまでの学習活動を振り返りながら感想を書く活動を位置付ける。その際、感想文を書くことに対する抵抗感が減るように、「ナビ付き原稿用紙」を用意し、見通しを持って活動できるようにする。

思考力、判断力、表現力等と言語活動	
読書指導における思考力、判断力、表現力等とは、読んで考え表現する力及び読書への関心・意欲ととらえる。本単元の読書指導でねらう「感想の五つの視点」にそって焦点化して感想を書く力の育成は、読んで考え表現する力を高めると考える。	
そのための、段階的な読書スキルワークとグループでの読書座談会といった言語活動の積み重ねは、焦点化して感想を書くことへの理解と技能の習得につながり、意欲的に思考を深める有効な手段になると考える。	

3 単元の目標と評価規準（※は読書指導に関する言語活動の評価規準）

単元の目標	描かれた情景を、表現を手がかりに想像し、作品の世界を味わうことができる。
(発展) 読書指導の目標	※感想の五つの視点に沿って宮沢賢治の作品を読み、自分の生き方を考えながら感想を書くことができる。
読むことへの関心・意欲・態度	※宮沢賢治の作品や生き方に興味をもち、多くの作品を読もうとする。
読む能力	○「やまなし」に描かれた情景を、叙述に即して想像しながら読むことができる。 ○＜資料＞「イーハトーヴの夢」に書かれた作者の生き方や思いと、「やまなし」の内容とを読み比べることができる。 ※感想の五つの視点に沿って読んで考えたことを友達と交流することで、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。 ※自分を見つめなおし、自分の生き方・考え方につなげるための感想を書くことができる。

4 指導・評価の計画（12時間取扱い） 本時11/12

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ※言語活動とその留意点	評価項目（方法）
1	1	○「やまなし」の全文を読み、疑問に思ったことを出し合い、学習課題を考える。	・ 題名が「やまなし」になっていることや、幻灯が2枚あることに着目させる。	【関心・意欲・態度】 作品の主題にせまる学習課題を考えている。（ノート）
	2 3 4	○擬態語や比喻表現に注意して読み、谷川の世界を想像したり、五月と十二月の世界が表わす意味を考えたりする。	※谷川の様子を想像できるように、比喻表現や擬態語・擬声語、かのにの兄弟の会話に着目して、表に書き出させ、対比して考えられるようにする。	【読む】 情景が想像できる言葉や文に着目し、「五月」と「十二月」が象徴するものを考えている。（教科書・ノート）
	5 6	○「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方・考え方と「やまなし」の主題との関連を考える。	※作者の生き方・考え方と「やまなし」の叙述との関係が比べられるように表に整理させ、題名の意味を話し合わせる。	賢治の生き方・考え方と「やまなし」を関連付け、題名が「やまなし」になっている理由を考えている。（ノート・発言）
2 （読書指導）	7 8 9	○感想文を書く目的を知り、学習の見通しを持つ。 ○ブックトークを聞き、これから読む作品に興味を持つ。 ○各自作品を一つ選び、同じ作品を選んだ者同士でグループを作る。 ○感想の視点の役割分担をして感想をメモし、グループ読書座談会の準備をする。	・ 「読書を通じて自分の生き方を見つめよう」と目標設定する。 ・ 宮沢賢治の「グスコブドリの伝記」「セロ弾きのゴーシュ」「北守将軍と3人兄弟の医者」「よだかの星」のブックトークを行い、どの作品も読むように意欲喚起する。 ・ 読書スキルワークシート①②を使って、視点に沿って感想を書く学習を想起させる。 ※各自選んだ作品について感想の視点ごとに色分けした付箋や交流カードに自分の考えを書き読書座談会の準備をさせる。	【関心・意欲・態度】 四つの作品を読もうとしている。（観察） 【読む】 感想の視点について、考えたこととその理由を書いている。（読書スキルワークシート・付箋・交流カード）
	10	○自分が選んだ宮沢賢治の作品の前半部を読み、視点に沿ってグループ読書座談会をする。	※五つの視点の中から、1人ずつ発表の視点の役割分担をして、グループでの交流を進行させる。	【読む】 交流を通して自分の考えを深めたり広げたりしている。（観察・振り返りシート）
	11 本時	○自分が選んだ宮沢賢治の作品後半部を読み、視点に沿ってグループ読書座談会をする。	※前回とは違う視点を役割分担し、座談会を進行させる。 ※全体交流の時間を設け、読書座談会を通して深まったことや広がったことを出し合わせる。	【読む】 交流を通して自分の考えを深めたり広げたりしている。（観察・振り返りシート）
	12	○自分の生き方・ものの考え方につなげるための感想文を書く。	・ ナビ付き原稿用紙を準備し、全員が順序よく考えを整理して書けるようにする。 ・ これまで使った読書スキルワークシートや付箋・交流カードを参考にさせる。 ※感想の視点を絞り、これまでの自分これからの自分について考えさせられたことを中心に書くように指示する。	【読む】 宮沢賢治の本から学んだことを、これからの自分の生き方・考え方に関連付けて考えをまとめている。（作文）

5 本時の学習

- (1) 目標 宮沢賢治の作品について五つの視点で感想を交流し、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。

(2) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
導入 5分	1 本時のめあてを確認する。 (1) 各物語のあらすじを振り返る。 (2) 本時のめあてをつかむ。	T あらすじを振り返りましょう。 T 今日は、各作品の後半部について友達と語り合いましょう。	○クイズ形式で物語への興味、関心を高める。 ○前時の交流の様子を紹介し、交流のポイントをおさえる。	
読書座談会をして、感想を語り合おう。				
展開 35分 (5)	2 各作品の後半部を読み、感想を語り合う。 (1) 各作品の後半部を読む。【グループ】	T 今日の話し合う部分やそれぞれ分担した係について確認しましょう。	○読書座談会の対象とする箇所や今回役割分担する視点(係)を確かめさせる。 ①登場人物の性格や人柄、生き方 ②作者が言いたかったこと ③作品のキーワード ④作品のおもしろさやよさ ⑤作者の生き方・やまなしと比べて	本資料
(20)	(2) 感想の五つの視点を柱に、自分が一番心に残った部分とそのわけについて感想を交流する読書座談会を行う。【グループ】 ①主人公のここがすき係 ②作者の声係 ③キーワード係 ④いいところみつけ係 ⑤比べて係	T 感想の五つの視点について考えたことを友達と話し合いましょう。 C グスコブドリはみんなのために火山を爆発させました。自分を犠牲にしても人を助ける勇敢な人だと思います。ここが一番心に残りました。皆さんはどう思いますか。 C 僕も同じ感想です。もしもぼくがグスコブドリだったら・・・。 T これまで読んだ本の登場人物に、グスコブドリのような人はいませんか。	※1人一視点で発表し、それぞれに付け加えや意見を出し合う。 ○各グループを巡回し、意見を広げ深める発問を一つずつ準備して投げかける。	交流カード カード立て
(10)	3 グループで出た意見を発表したり、作品の感想に関する質疑に答えたりして、全体で交流する。【一斉】	T 読書座談会でどんな考えがでましたか。代表の人が発表して下さい。 C 私たちの班では、～の感想の視点で盛り上がりました。 C ○○さんは、なぜこの本を選んだのですか。	○読書座談会で多くの付け加えや意見が出た視点について説明させる。 ※グループ同士の交流を通して、座談会をしなかった作品にも興味を持ったり、深めたり広げたりした内容について学び合う場とする。	
終末 5分	4 本時の学習の振り返りを行う。	T 今日の学習の振り返りをしましょう。	○感想の視点ごとに、自分の意見がいくつ付け加えられたか自己評価させる。	振り返りカード